



木々の葉が赤や黄色に色づいてきました。いよいよ読書の秋到来です。西東京市では、11月を読書月間として市内小中学校で読書の推進をしています。四中図書館には新しい本がたくさん届いていますので、ぜひ見に来てください。きっとすてきな本との出会いがありますよ。

秋の読書週間

10月27日(月)～11月9日(日)



1947年、まだ戦争の傷痕があちこちに残っている時「読書の力によって平和な文化国家を創ろう」と出版社・取次会社・書店・図書館・新聞・放送マスコミが力をあわせ、第1回「読書週間」が開催されました。各地で講演会や本に関する展示会が開かれたり、読書運動を紹介する番組が作られたりしました。今年の読書週間が読書のすばらしさを知ってもらうきっかけになることを願っています。

11月生まれです！



ルイザ・メイ・オルコット

1832～1888

アメリカペンシルベニア州フィラデルフィアで4人姉妹の次女に生まれる。16歳のとき教員となり、南北戦争中(1861～1865年)は、看護師として働いた。同時に、常に執筆をおこない児童雑誌の編集などにも関わっていた。

1868年に4人姉妹をえがいた「若草物語」を発表し、作家として認められる。自らの姉妹をモデルにしている、自身は次女のジョーにあたるといわれる。現在も世界中で読まれるベストセラーである。



『やなやつ改造計画』

吉野万理子:著 913㊦ あすなろ書房

「おれってやなやつだな」と思っている主人公の光也が、市議会議員の伯父の影響で突如、生徒会長に立候補することからお話は始まります。光也は自分のもとより周りの人々もやなやつばかりだと思っていますが、生徒会長選挙や迷い猫事件などさまざまな経験を通して人にはそれぞれいい人の面とやなやつの面があることに気がついていきます。

『運命を変えるチャンスはなぜか突然やって来る』

今村翔吾:著 914イ 岩波書店

まだ直木賞作家になる前、ダンスのインストラクターをしていた著者が将来について迷っている高校生に「夢をあきらめるなよ！」と熱く語ったところ、「翔吾くんも夢をあきらめているくせに」と強烈な反撃をくらってしまいます。著者はその一言で一念発起、30歳でダンス教室の仕事を辞め、直木賞作家への道を歩みはじめます。しかしこの時点で著者は1作どころか1行も小説を書いていないのでした…。

『社会に出る前に知っておきたい「働くこと」大全』

水町勇一郎:著 366㊦ KADOKAWA

『図解でわかる14歳から考えるこれからの働き方』

社会応援ネットワーク:著 366ズ 太田出版

『10代女子のためのおしごと図鑑』

女子の進路相談室:著 366ジ メイツ出版

…など、仕事選びに関する本もたくさんあります。